

## 変装した国王と ロビン・フッドの友情

- 1 リチャード王が  
ロビン一味の悪戯いたずらを耳にすると  
彼らの所業をいたく気に入り  
ぜひとも会ってみたいと思いましたが
- 2 こうして 十二人の家来とともに  
ノッティンガムに行きました  
到着すると さっそくご馳走に舌鼓  
そのこの宿屋に落ち着きました
- 3 しばらく 宿泊していましたが  
いっこうに話は進みません  
そこで みんなで話し合い  
修道士に変装することになりました
- 4 ファウンテンズ寺院を後にして  
バーンズデイルに行く  
そこには 一行を攻撃しようと  
ロビンが待ち伏せしていました
- 5 王の背丈が高かったため  
ロビンは 不倶戴天の敵  
大修道院長アだと思い  
チャンス到来と喜びました
- 6 ロビンは王の馬の頭を掴んで言いました  
「止まれ 大修道院長ア」  
おまえのような贅沢者アは  
一度 痛めつけねばならぬ
- 7 「我らは王様の使者であるぞ」と  
王みずからが言いました  
「王様はそなたと話をするため  
この近辺でお待ちである」
- 8 「王様に恵みあれ」とロビン  
「王様を愛する者たちにも恵みあれ  
王様の統治を拒否する輩やからは  
地獄に落ちてしまえばいい」

9 「そなたこそが冒涇者ではないか  
裏切りを働いたのではなかったか」  
「何を申すか おまえこそ  
王様の使者とは嘘八百

10 「俺は 心根の良い正直者を  
傷つけたことなど決して無い  
俺が心から憎むのは  
税金を食い物にする悪党ども

11 「畑を耕す農夫たちを  
傷つけたことなど決して無い  
鷹や猟犬を追う森の狩人の  
血を流したことは一度も無い

12 「憎むべきは聖職者たち  
近頃 権力を振う者たち  
売女を侍らせる修道士と托鉢修道士  
そんな奴らから金を奪うのだ

13 「それにしても嬉しいのは  
ここで そなたと出会えたこと  
帰途につくまで 親友よ  
緑の森で歓待しよう」

14 リチャード王と供の者は  
それを聞いてたいへん驚き  
いったいどんな歓待なのかと  
恐怖で心が震えました

15 ロビンが王の馬の頭を掴んで  
天幕に連れてゆきました  
「王様の使者でなかったら  
こんな風にはもてなさない

16 「いやいや それどころか  
善良な王様のことを思えば  
どんなに多くの金を持っていても  
一ペニーたりとも奪えない」

17 ロビンは角笛を口に当て

大きな音を鳴らしました  
百と十人の仲間たちが  
足並み揃えて現れました

18 ロビンの前にやって来ると

順々に順番に跪ひざまずきました  
リチャード王は感激して  
「なんて 勇壮な光景だ」

19 王は内心眩きました

「ロビン・フッドの一团は  
我が廷臣よりも慎ましい  
宮廷人も森から学ぶべき」

20 こうして 晩餐の席に着くと

そこに敷かれた緑の絨毯は  
黒と黄と赤を織り込んだ  
美しく精密な作りでした

21 食卓には 鹿肉と野鳥と肉と

新鮮な川魚も並びました  
リチャード王は感激して  
「こんな歓待は初めてだ」

22 ロビン・フッドはエールを片手に

乾杯の音頭を取りました  
「さあみんな 酒を飲もう  
王様の健康をお祈りして」

23 リチャード王も乾杯すると

酒はみんなに回りました  
健康を願って エールを二バレル  
どんな者にも振舞われました

24 しばらくして ロビン・フッドは

ワインの大杯を手を取って  
「命尽きるまで ワインを飲もう  
緑の森に住む限り」

25 「仲間たちよ 弓を引こうぞ

灰色のガチョウの羽根を付けた弓  
王様の御前でするように  
弓試合を披露しよう」

26 棒切れや杖を矢で貫いて

立派な弓術を披露したので  
「こんな勇者は他にいない」と  
リチャード王は誉めました

27 「ロビン・フッドよ」とリチャード王

「失礼なことを尋ねるが  
王に誠意を尽くして仕えると  
そなたは心から誓えるか」

28 「心から」とロビンが答えると

みんな帽子を脱ぎました  
どんなときにも王に仕え  
命も捨てる覚悟と誓って

29 「たった一人の聖職者の悪行のため

聖職者嫌いになったこの俺だが  
そなたがこんなに親切だから  
再び愛せるよう努力しよう」

30 リチャード王は感動し

もはや黙っていられません  
「ロビン・フッドよ」とリチャード王  
「包み隠さず話そう」

31 「目の前にいる このわしこそが

至高の君主 リチャード王だ」  
ロビンは王の姿を認めると  
すぐに地面にひれ伏しました

32 「顔を上げよ」とリチャード王

「おまえを赦ゆるそう  
もうよい 友よ 顔を上げよ  
わしが赦ゆるすと言っておる」

33 こうして 一行が大声を出しながら

ノッティンガムに向かっていると

それを見た町人たちは震えました

王が殺されたと誤解して

34 この土地を支配するため

無法者らが来たと思ひ込んだ人々は

そこから逃げようと思ひましたが

行くあてもありません

35 農夫は鋤<sup>すき</sup>を畑に置き去りに

鍛冶屋も店を後にして

足の不自由な老人も杖をつき

びっこで逃げました

36 王はすぐに人々に

自分が緑の森にいたことを

今日この日から永久に

ロビン・フッドを赦<sup>ゆる</sup>すことを伝えました

37 真相を知った人々は

みんな声を揃えてうたいました

「神よ 我らの王を守りたまえ

憂いを処刑に ここは我らの町」

38 「ロビン・フッドめ」と州長官

「あの憎き悪党め

わしと従者を歓待するのに

たった一皿しか出さなかったドケチめ」

39 「わかったよ」とロビン・フッド

「ほら この金貨はおまえのものだ

お互い仲良くやってゆこう

他のすべての者たちとも

40 「州長官殿 金は返した

言い出しっぺはおまえさん

俺にも当然支払うべきだ

食事代をもらってないぞ

41 「だが おまえの屋敷で

豪華な宴を開くことを

王様がご所望と言うならば

おまえは金を惜しめまい」

42 策略にかかった州長官は

少しも反論することできず

王を食事に招きました

これで破産とこぼしつつ

43 ロビン・フッドは仲間とともに

ロンドンの宮殿に向かいました

かつて貴族だったロビン・フッドは

ついに宮廷に戻ることができたのです

44 緑の森に住む間 ロビン・フッドは

悪戯いたずらばかりしたものです

さあ友よ こっちに來て聞きなさい

正直者ロビンの最期の話

(吉田友紀訳)